

# 隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第26回

森の彫刻家 上床利秋

## その人は「見知らぬ人」「忘れえぬ女」

その人を初めて見たのは小学校の時だった。偶然本の中にその人を見かけた時の印象は、今を思えばまるで初恋のときめきのようだった。それは半世紀前の記憶に遡る。その時の自分に美術の知識などあるはずもない。いつしかその人のことなど実生活に追われて完璧に忘れていた。

大学生になってからであったろうか、日置市美山の喫茶店に入った時だった。店の壁にポスターとして偶然その人に再会した。

見知らぬ人の名は「忘れえぬ女（ひと）」とこというタイトルであり、作者はクラムスコイというロシアの画家でサンクト・ペテルブルグのトレチャコフ美術館に収蔵されていることを知る。そのポスターを売ってほしいと頼んだが、

ひと

店の主人には「旅先で手に入れた思い出のものだから売れない」と言うて断られた。よし、いつかロシアに行つて本物と対面したいと心に刻んだものだった。

美術が好きでこの世界に入った私であるが、そういう仕事を深めていくほどに、少年時代に入り込めていた絵との語らひはできなくなっている自分。そしてまた日々の生活に追われてロシアを旅することなど、暮らしの中に埋没していて実現させることもなかった。気が付いたら私は還暦を迎えていた。

ところが昨春秋、ついに会える機会がやってきた。11月23日から1月27日まで渋谷 BUNKAMURA 美術館でロマンチックロシア展が開催されるといふ。その時に会場に行けばその人に会えることを知った。私は初日に行くことに決めた。

私はその日、かねて美術館に作品展を見に行く気分とは、ひと際違う思いをもって、「その女（ひと）」に行つた。

初対面だけど、再会。

もしかしたら眼が合ったら、自分の頬は赤くなるのではないかなと思つていたのだが、やはり残念ながらその人はもう

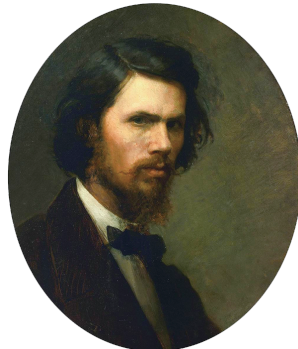
自分に語り掛けてはくれなかった。少年の日の心の震えは蘇ることはなかった。

何が構図だ、ハッチングだ、そんな表現技法など、どうでもいいのに「その女（ひと）」を見ず、すぐ作家としての目で、「その作品を観察してしまおう自分。そして、娼婦ではないかとも噂されている謎のモデルに対して、その着ている毛皮の解説と女性の表情に、「さも、ありなん」とも、納得してしまつ自分。

どこか、少年時代の夢から醒めた思いに似た気持ちで美術館を後にした。



イワン・クラムスコイ作「忘れ得ぬ女」



イワン・クラムスコイ (1837~1887) ロシア 「自画像」

クラムスコイは原題を「見知らぬ女」としていたが、後年、「忘れえぬ女」として有名になった。トルストイ作『アンナ・カレーリナ』の主人公とも言われているが、定かではない。

## レモン画材絵画教室 **ご案内**

- 隔週水曜日 10:00~ 油絵・水彩教室
- 隔週土曜日 16:00~ 油絵・水彩 教室
- 隔週日曜日 16:00~ デッサン
- 隔週土曜日 ①10:00~ 子供絵画教室  
②13:30~
- 月1回 第2木曜 10:00~ 和紙ちぎり絵教室

★ingミニセミナー〈POP文字・筆文字・絵手紙など〉  
チラシ等で随時ご案内致します。

お申し込みは TEL 0995-45-1015 国分進行堂・レモン画材まで

上床利秋

検索

<https://douzou.jp/>

日展会員 第一幼児教育短期大学 教授  
ホームページ刷新しました。

このページのバックナンバーも  
読むことができます。